

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M212R202	母性看護方法論 I (Maternal Nursing Practice I)	専門教育科目 母性看護学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	2	後期	木・1	猪俣 理恵・小柳 麻央 内線：5072 E-mail：rie-inomata@

【授業の概要・到達目標】

周産期（妊娠・分娩期）の生理的变化およびハイリスク状態にある母子とその家族を理解するための知識と援助の基本を学び、母性看護の実践に向けた思考を育成する。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 妊娠・分娩期の生理的变化およびハイリスク状態にある母子について理解し、家族を含めたアセスメントができる。	○	○	○				
2. 妊娠・分娩期において生理的およびハイリスク状態にある母子とその家族へのセルフケア支援を含めた看護について説明できる。	○	○	○				

【授業の内容】

1	周産期看護とは
2～4	妊娠期にある母子（胎児）の生理と正常逸脱およびそのアセスメント
5・6	妊娠期にある母子（胎児）と家族の看護
7～9	分娩期にある母子（胎児）の生理と正常逸脱およびそのアセスメント
10・11	分娩期にある母子（胎児）と家族の看護

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	個人・グループテスト、教員フィードバック	TBL 学習のプロセス（予習→個人テスト→グループテスト→チームアピール→教師からのフィードバック→応用課題）を通して主体的な学習活動の場とする。
B：意見の表現・交換	○	グループディスカッション	
C：応用志向	○	チームアピール・応用課題	
D：知識の活用・創造	○	チームアピール・応用課題	

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	教科書および講義で紹介する参考文献を用いて、次回の学習内容について予習する（16.5h）。
事後学修	教科書・個人・グループテストを用いて、講義で学んだ内容を復習する（11h）。

【教科書】

中込さと子 他 【編】（2022）：ナシググラフィ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版
医療情報科学研究所 【編】（2018）：病気がみえる vol.10 産科、第4版、メディックメディア

【参考書】 適宜紹介する。

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2
期末試験	80%	○	○
アクションレポート・課題提出	10%	○	○
TBL への参加・取り組み（ピア評価を含む）	10%	○	○

【注意事項】

TBL 学習を効果的に進めるために、各自で事前学習を充分に行い積極的な意見交換を行うこと。

【備考】

担当教員の実務経験の有無	有	
教員の実務経験	猪俣理恵（看護師・助産師）、小柳麻央（看護師・助産師）	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無	
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容	母性看護領域における看護の役割や実際について、臨床事例を紹介しながら説明する。	
授業形態	面接業	